高齢者叙勲 旭日単光章　古澤 幸久氏（下横田）

古澤さんは、昭和52年から平成元年までの12年間、横田町議会議員を務められ、その間、産業経済常任委員会委員長などを歴任し、地方自治の振興と住民福祉の向上に貢献されました。

また、昭和60年10月から平成元年10月までの約4年間は町農業後継者育成審議会審議員として、昭和40年5月から昭和45年6月までの約5年間は町農業委員長として、農業後継者の育成及び地域農業の振興に尽瘁（じんすい）されました。

これらをはじめとする多数の功績により、今回叙勲の栄に浴されました。

子育て家庭を応援する積極的な取り組み

奥出雲町商工会が「平成23年度こっころ大賞」を受賞

島根県内で、子育て支援に積極的に取り組む団体等を顕彰する「こっころ大賞」（こっころ協賛店部門）を、奥出雲町商工会（渡部一夫会長）が受賞しました。

商工会では、奥出雲町が進める子育て支援への取り組みの中で、「子育て応援の店」としてこっころ協賛店への加入促進に尽力されました。町内店舗を個別に訪問し、サービス内容のアドバイスや申請手続きの仲介など、きめ細かなサポートを行った結果、90店舗が新たに協賛店に加入。町内の協賛店舗数は113店舗になりました。

こうした積極的な取り組みと功績が評価され、この度の受賞となりました。

1月25日には、渡部会長と飯塚純敏事務局長が役場仁多庁舎を訪れ、井上町長に受賞を報告しました。渡部会長は「今後も子育て家庭支援のため、一層の加入促進とサービス内容のPRに努めたい」と話されました。

◀商工会の渡部会長（右）と飯塚事務局長（左）

▶協賛店にはこのステッカーが貼ってあります

しまね子育て応援パスポート「こっころ」を提示すると、いろいろな特典・サービスが受けることができます。

協賛店舗、サービス内容は、島根県と奥出雲町のホームページで確認できます。

◆奥出雲町ホームページ（ホーム＞くらし＞ライフイベント＞子育て）
http://www.town.okuizumo.shimane.jp/life/event/event030/post-521.html

◆島根県ホームページ
http://www.pref.shimane.lg.jp/life/syoushika/syoushika/parntenv/coccolo

第19回 しまね景観賞　優秀賞に「雲南警察署阿井駐在所」

県内の魅力ある景観を創出しているまちなみや建造物等で、地域の景観づくりに特に貢献していると認められるものを顕彰する「しまね景観賞」。

第19回目の今回は、県内から124件の応募があり、奥出雲町から「雲南警察署阿井駐在所」が優秀賞を受賞しました。

上阿井にある同所は、従来の駐在所のイメージとは違い、明るく開放的でのびやかな印象を与えます。また、住居・執務棟、車庫棟はそれぞれ小規模ながらも、広場のような駐車場をうまく取り込むことで、存在感がありながら周囲の景観に溶け込んでいる建物です。

今回の受賞を契機に、町内にある魅力的な景観の再認識と、新たな景観の発見につながっていくことが期待されます。

◀受賞した雲南警察署阿井駐在所

子育て支援の拠点に

八川幼児園が竣工

▲完成した八川幼児園

一貫した保育・教育の充実を目的とする幼保一体化事業として、町が整備を進めてきた「八川幼児園」が完成し、竣工式が一月十一日、園児や保護者、関係者など約七十人が出席して行われました。

同園は、八川幼稚園舎の老朽化や保育所整備を求める地元要望に応えるため、平成二十三年五月建設に着手。木造平屋瓦葺きで、総事業費は約一億九千六百万円。地元産木材を可能な限り使用した園舎には、四つの保育室や遊戯室などが設けられ、安全で快適な保育・教育環境が整えられています。

▲式典の様子

式典に先立ち、正面玄関前では、園児と井上町長や関係者により定礎式が行われ、新しい園舎の完成を祝いました。

式典で、井上町長は「今後も安心して生み育てることができる環境整備に努め、地域の皆様に支えられながら、子育て支援の拠点となってほしい」、また、八川地区教育振興会の石原吉徳会長は「この幼児園を中心に、地域とともに子育てや教育を考え合う場としたい」とそれぞれあいさつし、園舎の完成による子育て・教育環境の充実と、地域への効果波及に期待を寄せました。

園舎は三月末までは、幼稚園として使用され、四月からは幼児園として三十四人の園児とともに、新しい生活をスタートする予定です。

子どもたちと神楽社中が交流

▼迫力の演舞に見入る子どもたち

町内の子どもたちに、ふるさとに受け継がれる神話や神楽に親しみをもってもらおうと、神楽公演を観賞し、神楽社中と交流するイベントが一月十三日、カルチャープラザ仁多で行われました。

このイベントは、幼保交流事業として役場子育て支援室が主催し、奥出雲神代神楽社中のメンバー、町内の保育所・幼稚園の園児や、在宅子育て親子など約四百人が参加しました。

交流会前半では、神楽社中が、スサノオノミコトによるオロチ退治の場面を描いた神楽を披露しました。

子どもたちは、目の前で繰り広げられる迫力の演舞に見入っていました。

後半は、子どもたちが紙やビニールで作った衣装や刀などの道具を身に着けて、神楽社中のメンバーと交流しました。

子どもたちは、神楽社中のスサノオノミコト役から、セリフや刀の振り方などを教えてもらったり、オロチと一緒に写真を撮ったりして、互いに交流を深めました。

参加した子どもたちは「オロチが怖かったけど、たのしかった」と話し、ふるさとの神話や神楽に触れ、身近に感じることのできた良い機会となりました。

▲社中のメンバーと交流